



障がい者スポーツの推進

北翔大学 千葉ゼミ

○山根 裕稀 角田 祐樹
松田 卓大 真鍋 亮 吉川 航平



緒言

世界選手権大会において8m40cmという記録を出したマルクス・レーム選手

「義足が有利」ということでオリンピックに出場することはできなかった

このような問題は

「障がい者の排除」につながらないだろうか



車椅子ソフトボールと車椅子野球の普及



調査設問

1. なぜ健常者と障がい者は別々の大会に参加するのか。
2. なぜ障がい者スポーツと健常者のスポーツの間には格差があるのか。
3. 障がい者はスポーツ活動を行う上でどのような不自由を抱えているか。

研究の仮説

1. 健常者と障がい者が一緒にスポーツ活動を行う機会が少なく、別々に活動することが当たり前だと考えられている。
2. オリンピック等のスポーツ大会は健常者中心に組織されており、障がい者のスポーツ活動は様々な側面で軽視されている。
3. 日本にあるスポーツ施設の多くは、バリアフリーに対応しておらず、障がい者がスポーツ活動を行う上で様々な障壁に直面している。

研究目的

- 本研究では、
障がい者スポーツの課題を
明らかにし、スポーツ現場に
おける健全者との格差をなく
すための提言を行う。

研究方法

① インタビュー調査

(1) 2016年9月に北翔大学の車椅子ソフトボール選手A君を対象に1時間程度行われた。

(2) 質問内容

- ・ 障がい者スポーツが抱える現状と課題
- ・ 障がい者スポーツ活動の体験談

② 文献研究

(1) インターネットを利用した資料の検索

(2) 書籍や資料の分析

現状と課題

(1) 障がい者の公共スポーツ施設利用に関する課題 (インタビュー調査より)



①障がい者が不自由なく利用できるバリアフリーが進んだ施設が少ない。

②車イスでの使用は床が傷付くという理由で断られてしまった。

現状と課題 (2) オリンピックとパラリンピックの格差問題

	オリンピック	パラリンピック
開会式の視聴率	23.6%	7.8%
JOC・JPCによって支払われるメダル獲得報酬	金 500万円	金 150万円
	銀 200万円	銀 100万円
	銅 100万円	銅 70万円
チケットの 販売枚数と 購入枚数の割合	約50%	約13%

現状と課題

パラリンピック

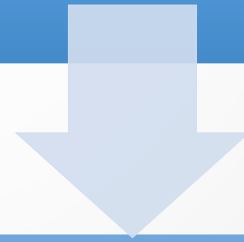
オリンピック

現状と課題

遠足に車で行くことを拒否



往復10kmを誰よりも速く走破



周りに変化が現れる



現状と課題

(3) インクルーシブ体育の必要性



現状と課題

- ・インクルーシブ体育の第一の壁

能力差

- ・インクルーシブ体育の第二の壁

教員の指導経験不足

現状と課題

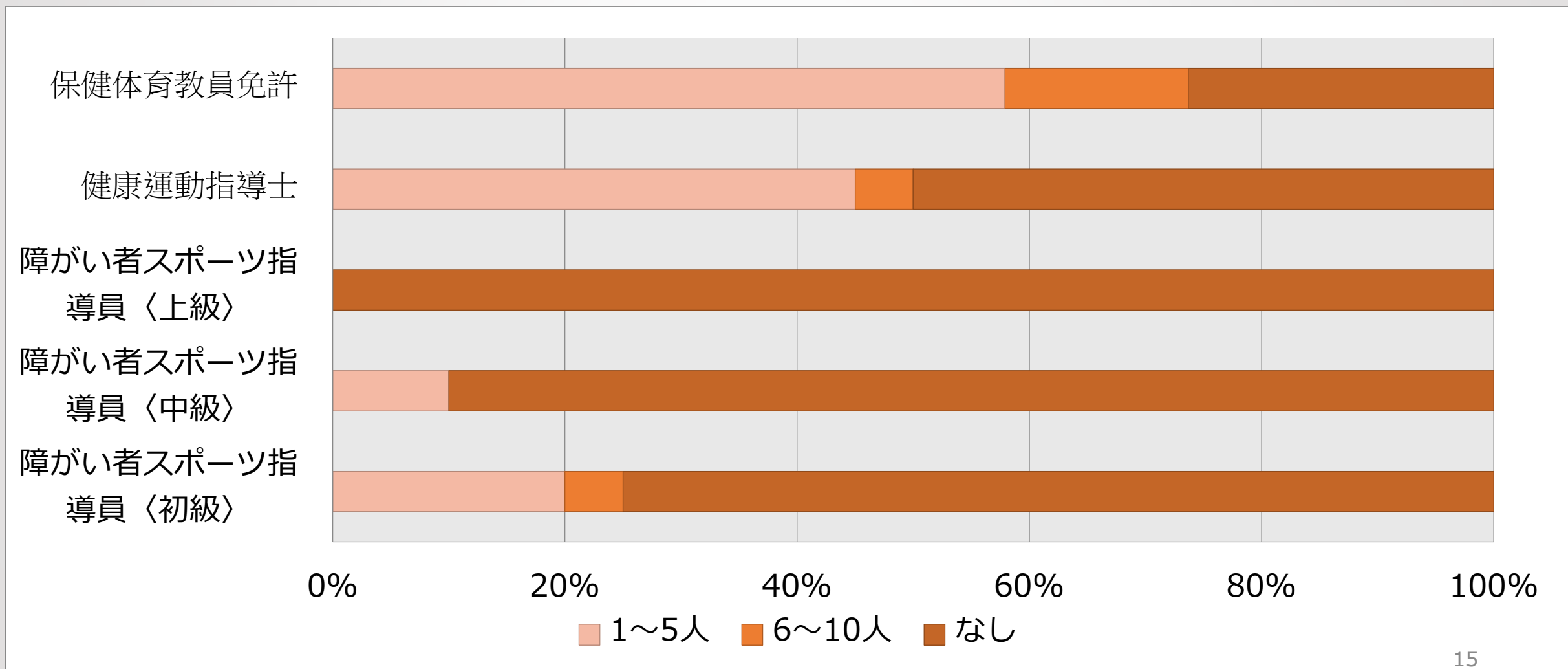


保健体育教員の障がい者スポーツへの理解不足

保健体育教員養成校での障がい者スポーツに関する講義の履修が義務づけられていない

現状と課題

(4) スポーツ施設職員にみる障がい者スポーツ資格の保有率



現状と課題

(5) その他の現状と課題

- ・ 障がい者スポーツへの参加に伴う自己負担金

国際大会に出場する選手は約500万円～1000万円の競技用車椅子を使用している

耐用期間も1年と短い競技も少なくない



研究まとめ

- 1.障がい者がスポーツ施設を利用できる環境が万全ではない。
- 2.オリンピック>パラリンピック
- 3.インクルーシブ体育への対応が進んでいない。
- 4.スポーツ施設職員の障がい者スポーツ資格の保有者が少ない。
- 5.障がい者スポーツ参加の金銭的負担が大きい。

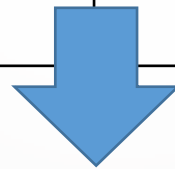
提言（1）2020年東京オリンピック・パラリンピック同時開催案

- ・ 健常者のパラリンピック観戦やテレビなどの視聴機会拡大
→障がい者スポーツの注目度が上がる。
- ・ インクルーシブ社会の実現を促す。

2020年東京オリンピック・パラリンピック 同時開催スケジュール

現在の日程

2020年東京オリンピック	2020年東京パラリンピック
2020年7月24日～8月9日 (17日間) ※サッカーは22日から	2020年8月25日～9月6日 (13日間)



2020年東京オリンピック・パラリンピック (仮)
2020年7月24日～8月12日 (21日間)

(例) 2020年東京オリンピック・パラリンピック サッカー同時開催案

2020年7月	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日
	29日	30日	31日				
2020年8月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
	8日	9日					

(黄色日はサッカー、青日はブラインドサッカー、緑日は脳性麻痺7人制 (CP) サッカー実施日、赤枠日は決勝)

※競技場…サッカー・CPサッカー→屋外サッカーコート

ブラインドサッカー→屋外フットサルコート

提言（２）

各種スポーツ協会への障がい者スポーツ組織の編入

（例）ソフトボール

日本

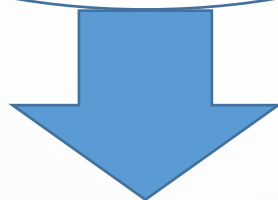
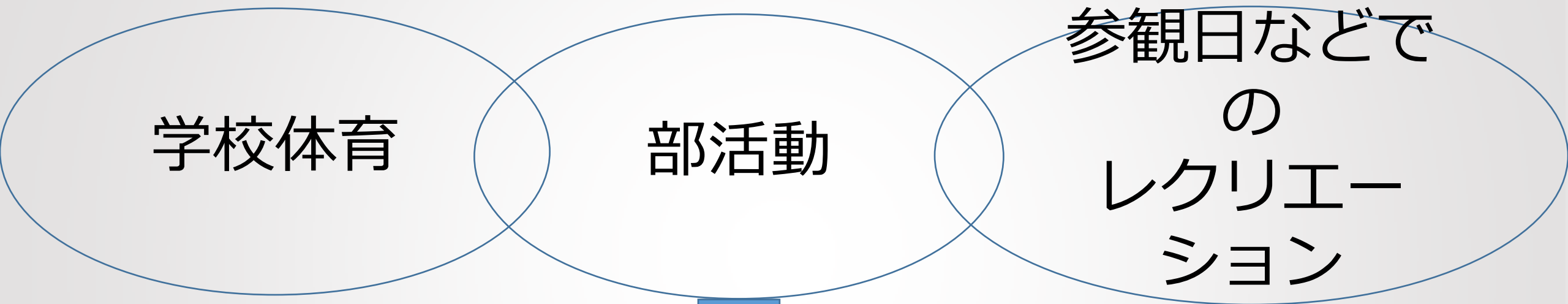
ソフトボール協会

日本車椅子

ソフトボール協会

大会の同時開催や
交流を行い、健常者が
障がい者スポーツに
触れる機会を増やす。

提言（3）インクルーシブ体育の推進



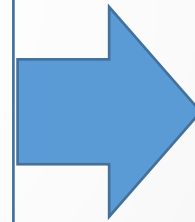
健全者と障がいのある児童と一緒に交流できる機会を増やし、障がいのある人に対する理解を深める。

提言（４）障がい者が利用できる スポーツ施設の増設と有資格者の常勤

- 障がい者が利用できるスポーツ施設を増設し、障がい者が気兼ねなくスポーツをできる環境を作る。
- 障がい者の利用するスポーツ施設に障がい者スポーツ指導員資格の初級所持者を3名以上、中級所持者を2名以上常勤させ、障がい者のスポーツ活動をサポートや直接指導を行えるようにする。

提言（5）保健体育教員養成カリキュラムに 障がい者スポーツ関連授業の必修化

- 学校現場でインクルーシブ体育での対応が迫られている。
- その準備を学生時代にできていない。
- 授業の履修率が高くない。



障がい者スポーツ
関連授業をカリキュ
ラムに必修として組
み込み、障がいのある
児童・生徒にも対
応できるようにす
る。

参考文献

- 藤田紀昭, 金山千広, 河西正博 (2014) 「保健体育教員免許の取得可能な大学における障がい車スポーツ関連科目の実施状況に関する研究」
- 草野勝彦 (2007) 「『インクルーシブ体育』の推進」: 市村出版
- 「障がい者のスポーツ参加に関する調査研究」 (2014) 文部科学省委託事業
- 毎日新聞「そこが聞きたい 障害者スポーツの課題」 2016年7月29日付朝刊, 12 (11)
- 毎日新聞「パラリンピックからの贈り物」 2016年6月14日付朝刊, 13 (22)

ご清聴ありがとうございました。